

平成 26 年度 地域貢献活動支援報告書

社会連携研究センター長 殿

所 属 生物資源学研究科
氏 名 岡島 賢治

活動テーマ	三重にツルを呼ぼうプロジェクト
実施期間	平成 26 年 7 月 1 日 ～ 平成 27 年 3 月 31 日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>学生主体の活動であるため学内ワークショップを通じて、本年度の計画の立案をおこなった。学生の立案した計画に対して、学外の共同実施者から意見をもらい、計画の再検討を行った。</p> <p>本年度は、学外の共同実施者（三重県農業基盤整備課）に加えて、津市教育委員会、津市文化振興課、フリーアナウンサーの協力を得て、談話会を開催した。</p> <p>年度後半は、学生の立てた調査計画に従い、調査を行った。調査は 2 グループに分かれ、1 グループはツルの飼育・生息環境の整理を目的とし、動物園や実際にツルを飼育・繁殖している岡山県自然保護センターへ聞き取り調査を行った。もう 1 グループは、対象地を伊賀市としてツルの保全に対する一般市民の意識調査と保全地域の環境の現状調査を目的として、伊賀市にあるモクモク手作りファームでの一般来場者に対するアンケート調査および、伊賀市の水田で照度・騒音・水質調査を行った。</p> <p>以上の調査結果をまとめ、事業報告書を作成した。</p> <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）</p> <p>本活動を通じて、三重県でツルを保全するための市民への意識調査と課題の抽出を行うことができた。その中で、ツルの環境教育への活用の可能性、ツルによる農作物への被害、鳥インフルエンザへの懸念など重要な問題点を整理することができた。次年度以降に、実際の地域へアプローチする上で活動している側のみの意見や感覚で地域にアプローチすることのリスクを明らかにしたことで、本年度は大きな成果があったと考えている。地域への貢献については、本年度は実際に伊賀市を対象地としてモクモク手作りファームなどで啓発活動を行えた点があげられる。動物を通じて農業への理解を推進している施設では、ツルに対する理解も比較的得やすいことがわかった。</p> <p>(3) 共同実施者との連携状況</p> <p>三重県農林水産部農業基盤整備課とは、談話会での講演、学生が立案した調査計画への意見、調査報告書への意見をいただいた。本活動の進捗に当たり要所での意見をいただけたことから、活動内容の充実および課題の明確化ができた。</p> <p>特に、談話会での講演については農業農村工学を学習している学生に農業農村整備事業が果たしている生態系保全の取り組みを紹介してもらい、学生の就学意欲の向上に寄与していただいた。</p> <p>さらに、談話会で講演いただいたフリーアナウンサー山上和美様には、8 月 12 日、FM 三重で午前に放送される「READY!」の中で本活動の話題が取り上げていただいた。</p> <p>(4) 大学の教育・研究成果のかかわり</p>

本年度は、ワークショップ形式をとり学生の意見を積極的に取り入れた運営を行った。これにより、学生同士のコミュニケーションが深まり議論をスムーズに進めることができた。また、学生がワークショップによる合意形成過程を学ぶことで、学生にワークショップの手法を活用するきっかけを与えることができた。

談話会では、鳥類の生態調査、農業農村整備事業における生態系保全事業、歴史的背景の読み方、コミュニケーションにおける話術など、学生の専門分野への啓発だけでなく、キャリア形成にも寄与できる談話会を開催することができた。

学生の行った調査結果は、複数回にわたる調査報告会において発表され、毎回プレゼンテーション能力の向上に寄与できた。さらに、調査結果を1つの報告書としてまとめることで、レポート作成能力を向上させることもできた。

(5) イベント等開催実績 (名称, 実施場所, 参加人数等)

7月8日 キックオフ勉強会

7月28日 第1回 学内ワークショップ 生物資源学部 207 13名

8月5日 第2回 学内ワークショップ 生物資源学部 207 13名

8月5日 談話会「ツルを通じて生態環境保全を考える」生物資源学部 207 22名

10月17日 第3回 学内ワークショップ 生物資源学部 207 12名

10月24日 第4回 学内ワークショップ 生物資源学部 207 12名

11月10日 中間報告会 生物資源学部 207 15名

12月7日 東山動物園視察 東山動物園 1名

12月11日 調査計画報告会 生物資源学部 207 15名

12月21日 もくもく手作りファーム聞き取り調査・現地観測 6名

1月15日 調査報告会 生物資源学部 207 12名

1月24-25日 岡山県自然保護センター視察・聞き取り調査・現地観測 3名

2月7-8日 もくもく手作りファームアンケート調査 6名

2月10日 調査報告会 生物資源学部 207 12名

2月24-26日 伊賀市現地観測 延べ6名

3月27日 最終報告会 生物資源学部 207 14名

(6) これまでの取り組みによって得られた具体的な成果について

ツルを三重に呼ぼうプロジェクトは、2年間で着実にプロジェクトを進めることができた。2年を通じて、知的背景として学生自身でツルの生態を調査・整理した。これに加えて実際に行った活動と具体的な成果を以下に記す。

1年目は、三重県におけるツルの歴史的背景およびツル越冬地の候補地を絞り込む作業を行った。三重県には、古代および江戸時代にツルとの深い関わりがあり、三重県にツルを呼ぶというプロジェクトの妥当性を明確にすることができた。古代においては伊勢地方のツルの穂落し伝説、江戸時代においては紀州藩および津藩における鷹狩のためのツルの保護活動があることを明らかにして整理した。また、ツルの越冬地としての環境を文献調査するとともに、明和町、伊勢市における地図上の適地へ現地調査を行い、ほ場整備事業による水路と田面との生態系の断絶が課題であることがわかった。

2年目は、1年目の活動成果を踏まえて、具体的にどのようなステップでツルを三重に呼ぶのかを考えた。その結果、まずは飼育施設を作り市民および農民からの理解を得ながら、放鳥、自然下での飼育、野生化、渡りというステップが必要であることを確認した。そこで、ツルの飼育施設について先行事例である岡山県自然保護センターへの聞き取り調査、動物園での聞き取り調査を実施した。また、三重県での一般市民がツルに対する印象調査を行うことで、ツルを環境教育の道具として活用できる可能性が明らかとなった。さらに、飼育施設のある岡山県自然保護センターと伊賀市の水田での環境調査をすることで、三重県での飼育施設の設置における可能性と課題を明らかにすることができた。

談話会

ツルを通じて 生態環境保全を考える

三重にツルを呼ぼう！という掛け声で2013年度より三重にツルを呼ぼうプロジェクト(C@MP)が発足しました。1年間の勉強を経て、生態環境を保全するためには、生き物の行動を知り、保全する場所を創るだけでなく、地域の歴史文化的背景や、それをどう人に伝えるかということも重要であることがわかりました。そこで、それらのことをテーマに各方面で活躍されている方を講師として招き談話会を開催します。

とき：H26年8月5日(火曜) ところ：三重大学生物資源学部棟
18:00~19:20 2F206室

プログラム

- 18:05~18:20 昨年度の成果報告
三重大学生物資源学部4年 西脇祥子
- 18:20~18:35 岩手県と福岡県におけるサシバの給餌動物
津市教育委員会 神水彩花
- 18:35~18:50 生態系保全事業の現状と課題
三重県農林水産部農業基盤整備課 木田 淳
- 18:50~19:05 古文書の読解について、その第一歩
津市文化振興課 中村光司
- 19:05~19:20 ことばとアナウンス
フリーアナウンサー 山上和美

特別寄稿

気象キャスターの役割

三重テレビ放送気象キャスター 多森成子

出版：社団法人 協会刊(冊)、主催：三重にツルを呼ぼうプロジェクト(C@MP)
(録)学研ホールディングス 共催：地域保全工学講座

談話会告知文



伊賀市での水質調査の様子



岡山県自然保護センターでの観測機設置の様子



岡山県自然保護センターでのヒアリングの様子



活動成果報告会